

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に、出勤職員が施設理念の唱和を行い、確認を行っている。意思統一を図り、地域に根ざしたサービス提供の実践に努めている。入職者には、随時説明を行っている。	グループホーム開設時に事業所独自の理念を作成し、玄関、事務所に掲示し、毎朝のミーティング時に確認しています。また、職員も年間個人目標を設定し、理念を実践できるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園児との交流会、中学生や高校生の職場体験受け入れ、町内会行事(夏祭り)等、地域の方々と積極的に交流を行っている。又、スーパーマーケットやドラッグストアなどに買い物に出掛け、資源を活用している。	町内の回覧板にて事業所広報を回覧し、地域にも事業所での活動の情報を発信しています。また、ご利用者と一緒に町内の納涼祭に参加したり、保育園児との交流の機会を設けたり、中学生・高校生の体験学習の受け入れをしたりと、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での実践内容を踏まえて、地域の研修会の参加や実習の受け入れ、施設見学等、積極的に行っている。認知症の方に対しての理解や、人材育成などの貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業報告・経過報告とともに要望・意見・指摘を受けながら、今後の施設運営についての意見交換を行っている。会議の内容については、施設会議での報告や掲示により、反映されるよう努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、ご利用者やご家族、町内副会長、市の担当者、地域包括支援センター職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の状況報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センター職員に出席頂き、連携を図っている。(市の担当者は随時出席)施設の情報発信や地域の現状について話を行い、サービス向上に努めている。	地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただき、定期的に情報を交換しているほか、アドバイスも頂くなどし、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会への参加、施設内報告会で周知と共通認識を図っている。又、運営推進会議で、現状の報告や対策について検討している。出来るだけ自由な生活を送って頂けるよう支援している。	身体拘束を行わない方針のもと玄関の施錠も夜間のみとしているほか、職員会議にて身体拘束についての研修を行い周知徹底をしています。また、職員の言葉の遣い方についても指導するなど、身体拘束をしないケアを実践しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会への参加、施設内報告会で周知と共通認識を図っている。又、施設会議の場で話題に挙げ、理解の浸透・遵守に向けた取り組みを行っている。	身体拘束研修と同じく職員会議にて虐待防止についての研修を行い周知徹底しており、日常の言葉の使い方やしぐさの部分も確認し、虐待の防止に努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度については資料を揃え、いつでも確認できる状況である。成年後見人が必要なケースでは、管理者や介護支援専門員が対応に当たる為、職員の理解は不十分である。必要な時に備え、理解を深める取り組みを行っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ケアの方針・退所時などの対応について説明を行っている。入院や状態の変化により、継続対応困難が予想される場合、連携施設への入所へ繋げるなど、その後の対応方針を含めて納得が得られるよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、日常の状況報告を兼ねて、苦情や要望が言いやすい体制作りに努めている。又、玄関ホールに投書箱を設置し、意見を伝えやすい環境整備にも努めている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。また、事業所の忘年会にはご家族にも参加していただき、ご家族との交流を図り意見が出易くされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例(月1回)の全体会議や各ユニット会議の場で、様々な検討を行い、改善を図っている。より職員の意見を汲み取れるよう、管理者が職員の個別面談を随時行っている。	日常の業務の中で職員から改善提案があれば、毎月の全体会議・ユニット会議・リーダー会議の場で検討が行われ、改善されています。また、所長が個人面談の機会も設けるなどし、職員の意見を汲み取れるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	年間休日(120日以上)に加え、2時間単位での有給休暇取得を可能としている。又、年に1回、基本給や各種手当等水準見直しを行い、職員の意欲が高くなるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職した職員に対して一定の期間は、マンツーマンでの指導を行っている。中堅職員やベテラン職員に対しては、定期的に研修を受ける機会を作り、意識改革や意欲向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会や同法人施設で行われている研修会に参加している。又、地域包括支援センター主催の研修会に参加し、地域の方との意見交換、交流にも努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握する為、情報収集を行っている。1つ1つ意向を確認し、入所にあたっての不安が軽減できるように努めている。入所前の訪問・連絡により、ご本人やご家族との関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望、これまでのご苦労や経緯を聴き、ご家族の様々な思いを受け止めるように努めている。入所後の対応について話し合いを行い、安心して利用して頂けるように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況とご家族の意向の中で、施設として出来る事を説明し、信頼関係を築くようにしている。又、担当の介護支援専門員との連携とともに、法人内複合施設や他事業所サービス利用への提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の発した言葉を見逃さず、思い・不安・喜び等を知ることにも努めている。ご本人の立場を考え、個別での関わりを大切に、暮らしの中で支え合える関係作りに留意している。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に毎月必ず、手紙や広報誌を送付している。手紙は担当職員から日頃の様子を書いて、お伝えしている。その際、写真も一緒に送付し、近況の様子がより伝わるように努めている。又、電話連絡や面会時に、ご家族との情報共有を行い、協力関係を築けるように心掛けている。	毎月居室担当職員よりご利用者の日々の生活の様子をまとめたお手紙もお送りしたり、1年の事業所の活動の様子をまとめたDVDも忘年会時にご家族へ渡しています。また、受診・外出・外食の支援もご家族の協力をいただくなど、一緒に支えあうことができるような関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅や馴染みのお店等、ご本人の希望の場所には、出来るだけ個別外出やご家族に働きかけを行い、希望が叶うよう取り組んでいる。又、友人や知人の来訪時には、居室でゆっくり過ごして頂けるように対応している。	ご家族の協力も得て面会に来て頂いたり、外食に出かけたり、行きつけの美容室を利用したり、定期的にご自宅に帰省されたりと、今までの関係継続支援に努めています。	調査時点で外出届が他のご利用者のファイルに綴じられている方もいましたので、今後ミスが無いように改善されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やお茶の時間、レクリエーション等、多くの時間を共有出来るように努めている。又、職員が間に入り、入居者同士の関係が円滑になるように支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られる際には、サービスの状況・ケアプランなどの情報提供を行い、連携を図っている。退所後も面会に行く事で、関係性が継続できるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の発する言葉から、思いや意向を汲み取るようにし、記録に残すことで職員間で情報共有を行っている。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われており、その情報は毎月のカンファレンスで連絡され、ケアプランの検討に活かされています。	センター方式を活用しご利用者の意向確認がされていましたが、介護計画作成後に行われていた方もいましたので、今後改善されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族やサービス事業者から、これまでの生活についての情報収集を行っている。入所後も随時ご家族に話を伺ったり、ご本人との会話の中から、情報を得るようにしている。	センター方式を活用し、ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。6ヶ月に1度アセスメントを行い、定期的な情報の更新も行っています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連絡ノート等を活用し、情報共有している。1人1人個別で行う対応についても、ファイルにまとめ職員間で対応が統一できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中から、ご本人、ご家族の意向を確認し、ケアプランに活かすようにしている。実施状況については、毎日確認している。	6ヶ月毎の短期目標を作成し、毎日実施状況を確認しています。また、月に1度はモニタリングも実施しているほか、サービス担当者会議も6ヶ月に1度、ご利用者、ご家族の意向を確認し、居室担当職員を交え行われています。	調査時点で介護計画書に日付の誤りがある方もいましたので、今後改善されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきも記録に残すようにしている。職員は出勤時に連絡ノート、日誌等の記録には必ず目を通し、情報共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的には、ご家族に受診対応をお願いしているが、緊急時やご家族の希望時には職員が対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事参加、近隣の保育園児やボランティアの来園、中学生や高校生の職場体験の受け入れ等、地域との交流を図っている。又、スーパーマーケットやドラッグストアでの買い物等充実した生活が送れるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する医療機関へ受診往診をしている。基本的に受診はご家族が対応しているが、状況により職員が同行する事もある。受診時には、担当医へ文章で情報提供を行っている。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっておりますが、多くの方が往診に切り替えています。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じ職員が同行し、医師との状況の確認が行われているほか、ご利用者の情報をまとめ医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な変化も見逃さないようにし、看護師へ報告をする事で、体調の異変に早期発見できるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、入院先の病院へ情報提供を行っている。入院中は定期的な面会を行い、医師や看護師から経過を伺うようにしている。ご家族とも連絡を取り合い、退院へ向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族に随時意向を確認し、施設として出来る事を説明しながら、ご本人やご家族の意向に沿えるように対応している。	実際にホームにて看取りを行ったケースもあり、ご利用者の状態に応じて必要時には医師も交え話し合いの場を持ち、ご利用者・ご家族の意向を確認し、ホームでできることを伝え、施設や医療機関とも連携し支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	隣接施設で行われた消防署職員による、救命救急講習に参加し、急変時対応の習得に努めている。又、地域で行われている救命救急講習にも参加し、知識や技術の維持・向上に取り組んでいる。	ご利用者の急変や事故を想定したマニュアルが整備されており、普通救命講習も職員に順番に受講してもらい、職員が適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	隣接施設と連携し、年2回入居者の方と共に、避難訓練を行っている。年1回は消防署職員が立ち合いのもと行い、助言を受け、今後の防災活動に活かすように取り組んでいる。	隣接する複合施設と連携し、夜間の火災等を想定した避難訓練を行なっています。災害時を想定した非常用の食品や水の確保もされています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	これまでの生活歴や環境等に配慮し、お1人お1人に合わせた声掛けや対応を行うようにしている。ご本人の言葉に共感し、さりげない声掛けを行うように心掛けている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるように職員会議の場等で徹底されています。また、広報・ホームページへの写真の掲載や居室の入り口の名前の表示についてもすべてのご利用者に確認をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人がお好きな飲み物を選んで提供したり、お好きな服を選んでいただき着用したりと、日常的に自己決定できる場面を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、ご本人のペースに合わせて食事時間を変更したり、個々の希望に出来る限り対応し、ゆっくと過ごせるような環境作りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の方に来ていただいたり、ご家族に協力していただきながら、希望の美容室に外出されたりしている。洋服を買いに出掛けたり、お化粧をされている方もいらっしゃるりと、個々でおしゃれが楽しめるような支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けは、出来る限りご利用者と職員と一緒にいるようにしている。買い物にも同行していただき、食材を選んでいただいている。季節を感じていただけるようなメニューを心掛けている。	ご利用者にも出来る範囲で調理や後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でも野菜をつくっており、収穫はご利用者の楽しみとなっています。誕生日に合わせて好みのメニューを提供したり、個別支援で外食に出かけるなどし、ご利用者に食事を楽しんでもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事摂取量や水分摂取量を確認し、情報共有を行っている。摂取量の少ない方に対しては、個別で好みの物や希望の物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けを行い、必要な方には介助を行っている。口腔ケア用品については定期的に消毒を行い、衛生面に配慮している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、排泄パターンの把握を行い、尿意があいまいな方に対してもトイレで排泄出来るように支援している。言葉で表現できない方に対しては、ご本人のサインを見逃さず、トイレ誘導を行うようにしている。	排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。トイレもユニット毎に4箇所あり、職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因を考え、下剤の服用については医師や看護師とも連携を図りながら対応している。レクリエーションに体操も入れ、運動の機会を増やすようにしている。個別で水分を多く取って頂く工夫も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は概ね週2回行っている。基本的には、午後に入浴を実施しているが、入浴の順番は、ご本人の希望に出来る限り、沿うようにしている。	基本的に週2回の基本パターンを決めていますが、ご利用者の要望に合わせて入浴支援をしています。季節に合わせてゆず湯を行うなど、入浴を楽しんでもらえるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お1人お1人のペースに合わせた午睡、急息をしていただいている。夜間、眠れない方に対しては話を傾聴したり、好きな飲み物を提供したり、安心できるような関わりの時間を持つようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用、副作用等の情報は、各ユニットにファイルを置き、職員が常に確認できるようにしている。薬の変更時には、職員間で情報共有を行い、確実な服薬を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑、将棋、裁縫、生け花、お茶など、長年の趣味や経験、特技を活かすような場面を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な買い物は、職員と出掛けている。お花見やはす見学、紅葉見学等ドライブに出掛けている。希望で買い物や外出に出掛ける事もある。	ご利用者と一緒に近くのスーパーに食材の買物に出かけたり、ご利用者の要望に合わせて買い物や外食と一緒に出かけたりもしています。また、季節に合わせたお花見やはす見学、菊祭りなどの外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭の自己管理は行っていない。ただし、ご本人が金銭所持されることで安心される場合には、ご家族の了解を得て、所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、手紙を書いていただいたり、電話を取り持つ支援を行っている。携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビング、廊下等に季節を感じていただけのような装飾を行っている。行事の写真や案内ポスターの掲示を行う事で、利用者同士の楽しみや話題作りとなっている。	リビングはご利用者がテレビを見ながらゆったりと過ごせる環境になっており、ご利用者が活けるお花を飾ったり、雛人形を飾るなど飾られている装飾品も季節に合わせてあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや談話コーナーにソファを設置し、お1人でもくつろげるようなスペースを提供している。安全面にも配慮して環境整備を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具を持参して頂いたり、使いやすい家具を設置することで、安全で安心できるような家具の配置を工夫している。又、好みの写真や絵などを設置する事で、居心地の良い居室になるようにしている。	居室には寝具やタンス、お仏壇など、ご利用者が使い慣れた物を自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お1人お1人の状況に合わせて個別で目印になるような物を掲示し、安心して過ごせるようにしている。個別で居室に手すりを設置したり、センサーライトを設置したり、安全に過ごせるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない